

◆◆ 台風が接近し、大雨が続き、浸水による被害が起こりそうなとき ◆◆

＜避難する前の準備の一例＞

- 雨の降り方、河川の様子など、NHK、平塚市からの最新情報を絶えず確認する。
- 「避難行動要支援」の方々は、民生委員、支援してくれる方々との連絡を密にする。
- 外出している家族の帰宅について連絡を取る
- 買い出し： 店が開いているうちに食べ物、水、電池などを購入する。
- 持出物の準備： 通帳、印鑑、財布、保険証、薬とお薬手帳、携帯・充電器、免許証、鍵  
“焦ると何をもち出せばよいか考えられなくなる。事前に、持出物のリストを作ること”
- 床上浸水に備えて、大切な物を2階に移動させる  
“家族の写真・アルバム、権利証、靴、電話帳（親戚、行政機関、業者の電話番号）”
- 車のガソリン： 満タンにする

- 常に、最新の情報をキャッチしよう
- 会長からの伝達は、途切れることなく、つないで行こう
- まだ大丈夫ではなく、早めの準備、早めの避難を心がけよう
- 近隣で、声かけ合い、助け合い、協力し合って避難をしよう

- ライフライン（電気・ガス・水道・下水など）が止まることを想定して備える。
  - ・ 電気： 懐中電灯、電池、携帯の充電器
  - ・ ガス： カセットコンロ・ボンベ
  - ・ 水道： 風呂に水を張る、飲み水の準備  
“トイレに水を流す、身体や物を洗うなどに使える”
  - ・ 下水： “逆流を起こすと、トイレから水があふれそうになり、布を詰め込んだ”
  - ・ トイレ： 断水を想定し簡易トイレ、ペーパー、古新聞、ビニール袋を用意する  
“災害用のトイレ（ビニールと凝固剤）が有効だった”
- カメラ： 被害状況の写真撮影  
“罹災証明、保険金の請求に役立ちます” （“・・・”内は、水害を体験した人達の言葉です）

幼少児、体調不良、病気の方、妊婦の方などは家族で話し合いのうえ、応じた準備が必要です。身内の方々や近隣の方々とも、話し合っ、災害に備えましょう。＜常に落ち着いた行動を＞  
『自分の命は自分で守る』、『情報を待つのではなく自分で取りに行く』を忘れないでください。

(文責：寺田縄防災検討会代表 片山興大)